

内蒙古人民党声明

内蒙古人民党

2015年7月1日

内蒙古人民党は2015年6月29日から30日にかけて、スウェーデンの首都ストックホルムで党総会を開催しました。これは、2006年に東京で行われた特別会議以来、最初の大規模な会議でした。内蒙古人民党の各支部の代表が大会に出席し、南モンゴル抵抗運動の支持者や人権団体のオブザーバーも参加しました。

大会では、党の指導原則を修正し、再び南モンゴルにおける中国の植民地支配を終わらせ、最終的に南モンゴルの民族自決と独立を達成することが内蒙古人民党の最終目標であることを強調しました。大会では、党の業務方針が議論され、全ての活動が民主主義の原則に基づいて行われることが明確にされました。同時に、内蒙古人民党の組織構造の適切な調整も行われました。

大会期間中、参加代表者たちは南モンゴルの現在の政治、経済、社会状況について幅広く議論・分析を行い、今後、域内外で実施する具体的な活動計画をまとめました。

また、大会では執行委員会の新メンバーとして、党首および書記長が選出されました。内蒙古人民党の元執行委員であるH.ドルギオン（ドルギオン・ハトギン）が党首に選出され、S.バヤル（S.バヤル）が書記長に選出されました。